

田野畑村流域治水協議会議事録

日時：令和5年8月31日（木）13：30～14：30

場所：岩泉地区合同庁舎第1会議室

1 挨拶

2 議事

- (1) 田野畑村流域治水プロジェクト（案）について
- (2) 8月13日から14日の岩泉町小本周辺の局地的大雨について（情報提供）

出席者 田野畑村 佐々木村長

沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター 村居所長

沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター林務室 伊東森林保全課長

沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター 佐々木所長

林野庁東北森林管理局三陸北部森林管理署 葛西署長

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター盛岡水源林整備事務所

佐藤所長

気象庁盛岡地方气象台 藤井次長

○事務局岩泉土木センター阿部副所長 ご案内の時間より若干早いですが、皆様お集りになりましたので、ただ今から、「田野畑村流域治水協議会」を開催したいと思います。

私、本日司会を務めます岩泉土木センター副所長の阿部と申します。よろしくお願ひします。最初に資料の確認をします。次第、出席者名簿、配席図、資料1-1、1-2、資料2、盛岡地方气象台さんから追加で提供いただきました資料3、参考資料がございます。不足がありましたら、事務局までお申し付けください。

なお、出席者皆様の御紹介は、お配りしております出席者名簿にて代えさせていただきますので、御了承ください。

それでは会の開催にあたりまして、岩泉土木センター所長の佐々木からご挨拶申し上げます。

1 挨拶

○佐々木岩泉土木センター所長 岩泉土木センター所長の佐々木でございます。

本日は、御多忙中にもかかわらず佐々木村長様をはじめ、皆様方におかれましては、本協議会にお集まりいただき、ありがとうございます。

さて、今年のお盆期間中の8月13日には、岩泉町小本観測所で最大24時間雨量576mm、最大時間雨量123.5mmという観測史上最大の大雨に見舞われました。この大雨では、国道45号や国道455号で沢からの土砂流出などが発生し、一時通行止めとなりましたが、大雨の範囲が、海岸沿いの限定的な範囲であったことから、雨量の割には、甚大な被害が発生し

なかったということで、安堵しているところです。

このように、県内においても、いつ、どこで、経験したことの無いような豪雨災害が発生してもおかしくない状況となっており、県としても、すべての水系を対象に、流域のあらゆる関係者が協働して行う流域治水に取り組んでいくこととしております。

田野畑村においても、関係機関のご理解を頂きまして、今年5月に流域治水協議会を設置したところでございます。

本日の協議会では、各構成員の流域治水に関する取組を取りまとめた「田野畑村流域治水プロジェクト」を策定することとしており、各構成員の取組状況を共有し、今後の取組の発展につなげて参りたいと考えておりますので、皆様方からの忌憚のないご意見等をお願いしまして、挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく申し上げます。

○事務局岩泉土木センター阿部副所長 それでは議事に移ります。「田野畑村流域治水プロジェクト案」について、事務局から説明します。

2 議 事

(1) 田野畑村流域治水プロジェクト（案）について

[＜事務局岩泉土木センターより、資料1、資料2について説明＞](#)

○事務局岩泉土木センター阿部副所長 次に、今回追加で情報提供いただきました資料3の内容について、盛岡地方気象台の藤井次長様から、ご説明をお願いします。

(2) 8月13日から14日の岩泉町小本周辺の局地的大雨について（情報提供）

[＜盛岡地方気象台藤井次長より、資料3について説明＞](#)

○事務局岩泉土木センター阿部副所長 説明ありがとうございました。それでは、流域治水プロジェクト等に関しまして、構成員の皆様からご意見を頂きたいと思っております。

最初に、佐々木村長様からお願いします。

○佐々木村長 お忙しいところ、本会議にご出席いただきましてありがとうございます。また、日頃から田野畑村の防災に関しまして、ご理解ご協力を賜りまして改めて感謝申し上げます。この流域治水という取組につきましては、平成28年の8月の台風10号によって甚大な被害を受けました岩泉町さんが、先駆的に実施され、全国的にもモデルとなっていると伺っております。その流れを受けまして、田野畑村でも流域治水を立ち上げて、防災減災に取り組むということに対しまして心強さを感じております。しっかりと機能していただき、住民の生命と財産を守っていくことに繋げてほしいと考えています。

田野畑村には5つの二級河川がございますが、明戸川など以前から災害を受け続けている歴史がございます。記憶に新しいところでは台風10号、令和元年の台風19号災害がございますが、河川だけではなくて普段水気のない小さい谷から雨水が流れ出して、流出した道路に車が転落して死亡事故が発生するなど、これまでに経験したことのない災害に見舞われるようになってきたなど、いうふうに感じております。

先ほど、13日から14日にかけての豪雨ということで、气象台さんの方からご説明がありました。岩泉町では24時間降水量が550ミリを超えたということでございます。台風10号、台風19号の2倍から3倍ほどの降水量ということで、とんでもない災害が発生するのではないかとということで、非常に警戒したところでありますが、降ったところが局地的、下流部ということで、大きな災害にならず胸を撫で降ろしたところであります。

この協議会の目的で謳っているように、あらゆる関係者が協力連携して、ハード面、ソフト面を駆使して水害を減災させるため、防災減災意識の醸成にも努めて参りたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○村居宮古農林振興センター所長 計画につきましては、この通り、随時各関係機関で進められる施策を取り込んでいくということ、また、これを現場で共有しながら、不足部分も共有しながら、施策を進めていくということで、良い取り組みだと思っております。

我々の方としましては、今日も来ております林務室の方で治山事業を取り組ませていただきながら、一緒に取り組んでいければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ちょっと興味本位で聞かせていただきたいですけども、ハザードマップ、各市町村で作られるハザードマップですが、災害が起こるとか、冠水になるとか、それが、どれぐらいの雨量だったらこうなる、というようなことは、それぞれのハザードマップの中で謳われているのでしょうか。当然、ここは危ないよ。というのは図面で示されていて、ここに避難してください、ということが示されているのが、ハザードマップだと思うのですが、その際にこれぐらい降ったら災害になりますよ。というような、雨量の目安とか示されてしているのでしょうか。

○事務局田野畑村総務課似内主幹 ハザードマップには具体的に、雨量がこれ以上の場合、というような記載はしておりません。

○村居宮古農林振興センター所長 これぐらい冠水しますよとか、ここは崩れますよというところは示されているということですか。

○事務局田野畑村総務課似内主幹 ここは崩れる危険があります。ということは示されています。

○**村居宮古農林振興センター所長** わかりました、ありがとうございます。

○**佐々木田野畑村長** 昨日まで村民懇談会があったんですけれども、資料の最初に、台風10号の時には時間最大51ミリとか、台風19号の時は時間何ミリ、トータルで200ミリ、300ミリというようなことを示しながら、今回の13日から14日の雨量はそれに等しい、または超えていましたということを示しまして、災害が発生する可能性があった、過去に例があったので気を付けてくださいということで。数字を示しながら説明はしています。

○**村居宮古農林振興センター所長** わかりました。ありがとうございます。

○**伊東宮古農林振興センター林務室森林保全課長** 本日室長小原が所用のため、私、代理で来ております。先ほど村居所長からもありましたけれども、当室の方では森林整備とか治山事業を担当してございます。森林整備は県で実施するのもございますし、市町村や民間で実施しているのに対する補助ということもやっております。また治山事業につきましては、田野畑村さんの申請ということで、田野畑村と連携してやっておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上でございます。

○**葛西三陸北部森林管理署長** 田野畑村に関する国有林の取組ということで、お話をさせていただきます。参考資料は9ページということで、話させていただきます。田野畑村は国有林の面積があまり多くございません。令和5年度の事業としまして造林地の保育として下刈り17ha、除伐8haということで少し少ない面積になっております。

全体的な取り組みとして、現在、国有林では「溪畔プロジェクト林」を今進めております。内容はちょっとわかりづらいかもしれませんが、川岸から約50mの両側を、これまで植林してきていた人工林を伐採・更新をしながら元の森林に戻していき、そのことで水源涵養の機能を充実させたり、土砂の流出を防ごう、ということで全体的な取り組みをしております。あと、直接治水に関係あるかどうかわかりませんが、田野畑村ではナラ枯れ被害がだいぶ進んでおりまして、田野畑村の村内ではナラ枯れの処理として、春さきの羽化する前に、伐倒・燻蒸の処理を継続してやっております。いったん枯れてしまいますと、土壌が流出したり、水源涵養機能が低下しますので、そういう意味では治水の機能を低下させないようにということで取り組んでいる一つかなと。その辺もお知らせしたいと思います。

治水対策として、6年度以降も引き続き森林整備中心に進めてまいりますけれども、先ほど1時間100ミリ以上だったり24時間で500ミリなんて雨が降る場面が多くなりますと、普段水が流れないでない斜面からどンドン水が出てくるようになります。こうなると、こちらで想定していないところからの土砂の流出が非常に多くなってくると思います。また、普段水が流れてないところですので、流出する量も多くなります。先日の大雨で宮古市の田野畑村に近い、市道に土砂が流出したということで、応急復旧等をさせていただいたところです。

今後、大雨によって国有林から市道とか県道、町道に土砂の流出などがありましたら早めに情報をいただければ、その後の復旧も含め一緒に対応してまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。こちらからは以上です。

○**佐藤森林整備センター所長** 参考資料 10 ページになります。整備センターは田野畑村では事業はないということですので、簡単にご紹介させていただきたいと思っております。当センターは昭和 36 年森林開発公団、農用地開発公団というのが前身の母体となっております。名前を色々変えて森林総合研究所と森林保健センター、森林整備センター、3 機関が一緒になって、森林研究・森林整備機構という組織となっております。全国展開しております、水源林造成事業は全国でだいたい 490,000ha ほど植えてきております。岩手県内では 19,000ha ほど植えてきております。ここにも具体的な取り組み内容が書いてありますが、対象地は国有林のうちの私有保安林というところを対象にして水源林を作っていく。作り方の方式としては分収造林方式をとっております。そんな恰好ですね、この写真にあるように左下は針広混交林ということで、なるべく広葉樹を生かしながら植栽を進めていたり、その横は育成複層林ということで、成熟した農林部ですね、そこを大面積の皆伐は避けて小面積で切って再造林していくような育成複層林というのを取り入れています。間伐で治水の方にも少しでも役に立ちますということで、間伐実施前と実施後ということで写真とつけています。新植も新規契約つけておりますので、田野畑村で放置された林ですとか、そういったところがありましたらお声掛けしていただければ微力ながらご協力させていただきたいと思っております。以上です。

○**藤井盛岡地方気象台次長** 資料の 1 の 2 ページになります。ロードマップのところになります。気象台としましてはハード的な対策はございませんので、主にソフトの対策のところになります。下の方 3 つになります。防災気象情報の利活用に関する普及啓発活動、適時的確な防災気象情報の発表、気象予測の高度化ということになっております。これで十分という終わりはないので、短期も中長期もずっと進めていくというものになります。その中でもやはり何といたっても気象台としては予測精度の向上というところですね。これがなければ始まらないというところもありますので、まず、これに向けて取り組んでいるのは、次期気象衛星の整備です。今現在打ち上げている気象衛星ひまわりは、2029 年に耐用年数を迎えます。後継機を作製しているところで、2028 年に後継機を打ち上げるべく準備を進めているところです。これには新たなセンサーを搭載するなど、最新の技術を導入していくという方向で、今進めているところです。

また、問題になっているのが、甚大な被害をもたらす線状降水帯の予測というところに、気象庁全体で力を注いでいるところで、今、数値モデルの改良ということで、スーパーコンピューターの富岳を利用するなど、いろいろな面で線状降水帯を予測するというところに向けて取り組んでいるところです。予測精度の向上を目指しながら、適時的確な防災気象情報

を発表して皆様に使っていただけるような防災情報を発表していきます。さらに、的確な防災情報を出しても住民の方に伝わらなければ何の意味もないということで、住民の皆様の普及啓発、防災気象情報の利活用、この三本柱で進めていく所存であります。以上であります。

○佐々木岩泉土木センター所長 さまざまなご意見いただきましてありがとうございます。今回の、田野畑村流域治水プロジェクトですが、初の策定ということで、まだまだ完成段階に至っていないところが多々見受けられますが、今後、毎年度フォローアップしながら、より精度の高いものに上げていく中で、参考資料の6ページに書いてある、河川情報の充実がやはり大切になってくると考えています。同ページにも書いてあります、浸水想定区域の指定で、川がどの程度の雨で溢れ、どのような形で浸水するのか、といったところが大切になってくると考えています。そして、危険な箇所をどのように監視して、情報を地域の方々に提供していくのかといったところが、ソフト対策として非常に大切になってくると思っております。今後、田野畑村様と一緒に、検討を進めて参りたいと思っておりますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それと、私から1点ほど気象台様にお伺いしてもよろしいでしょうか。

今回の13、14日にかけての豪雨ですが、当初、短時間降雨として小本付近で100ミリぐらいの雨が降るんじゃないかという情報を得ていましたが、実際には600ミリで、短時間で124.5ミリというような雨になりました。事前に気象台様で予測されていたような雨だったのででしょうか。

○藤井盛岡地方気象台次長 これは、残念ながら予測できませんでした。この日、13日はちょうど台風7号の説明会をするかしないかということについて、13日の日中、私どもは集まって検討して、直接影響はないから、今回やめましょう。ということになりました。それで防災メールで、今回は台風7号についての説明会はいりませんが、ただ暖かく湿った空気が入って沿岸の方で大雨になる可能性があるということは書いたんです。それが実は14日の午後から15日にかけてという風に私どもは考えました。13日中にそのような大雨になることは、私どもは全く考えていなくて、実際に14日の午後から15日にかけてこちらの方は普代村中心に結構強い雨が降ったんですが、そこは予想できていたのですが、13日のところは予測できませんでした。しかも1時間に120何ミリ降るなんていう予想は全くありませんので、今回のものは予測できなかった。ということになります。

○佐々木岩泉土木センター所長 ありがとうございます。

○村居宮古農林振興センター所長 気象台さんから田野畑村さんのほうでお話があったPOTEKAというはどういうものでしょうか。

○事務局田野畑村総務課似内主幹　うちのほうで防災情報無線の柱があるんですけども、それに所内4か所に雨量計の升をつけて、インターネットで提供できるシステムになります。

○事務局岩泉土木センター阿部副所長　他にご意見等ございますでしょうか。

それでは今回説明ありました案を、田野畑村流域治水プロジェクトとして、今後進めていくこととし、また、皆様からいただきました御意見を参考にしながら、来年度以降の協議会において、このプロジェクトの内容の更新など、議論させていただければと思います。

以上を持ちまして、本日の協議会は閉会といたします。

ありがとうございました。